

現地農業情報（沖永良部島・与論島）令和7年5月

（1）沖永良部島の製糖終了、35年ぶりの生産量10万t超

沖永良部島における今年度のさとうきび压榨が、4月30日に終了しました。生産量は昨年度を20,245t上回る106,827tで、平均糖度は昨年より2.09度低い14.55度でした。糖度は昨年度を下回ったものの、生産量は例年を大きく上回りました。沖永良部島でさとうきび生産量が10万tを超えるのは、平成元年度以来、35年ぶりとなりました。農業普及課は、収量確保と安定した生産のために、引き続き指導を続けていきます。

（2）グラジオラスの再興を！新規栽培者向け研修会を実施

花き生産者が年々減少している中、知名町では関係機関と連携して、グラジオラス新規栽培者の支援を行っています。5月14日、知名町役場にて新規栽培者向けの研修会を実施し、農家5名、関係機関2名が参加しました。基本的な栽培技術の講義を行ったあと、全員で定植時の球根消毒やほ場での病害事例等について意見交換をしました。今回は座学でしたが、9月に、ほ場で定植方法についての研修を行う予定です。農業普及課はグラジオラス栽培の復活をかけて継続的に支援していきます。



（3）肉用牛の防暑対策を推進

5月2日、沖永良部畜産部会（構成：家畜保健衛生所、農協、町、農業共済組合、農業普及課）は、沖永良部家畜市場の屋根に夏期の防暑対策として消石灰の塗布作業を実施しました。この取組は、子牛セリ市に子牛を出荷する肉用牛農家に消石灰塗布の効果を実感してもらい、各農家での実践を促すことを目的としています。また、当日は牛の熱中症が昨年発生した肉用牛農家1戸でも塗布作業を行い、今後の暑熱対策の効果を実証することとしています。



（4）5月子牛セリ市で与論島が大島地区トップに

5月6日に開催された与論家畜市場の子牛セリ市では、去勢牛および雌牛の平均価格が税抜き約55万円となり、前回と比べて約3万円高く落札されました。この価格は、大島地区内で5月に開催されたセリ市の中で最高価格を記録しました。出品された子牛の発育も良好で、購買者から高い評価を受けました。一方で、肩後部の幅がやや不足している子牛も見受けられたことから、農業普及課としては、子牛のさらなる商品性向上に取り組めます。